

平成二十九年 度 多部制単位制Ⅲ部 前期入学式

式 辞

本校自慢の体育館前の桜も満開となり、春たけなわの今日の佳き日に、平成29年度 大阪府立桃谷高等学校 多部制単位制Ⅲ部 前期 入学式を挙げるにあたり、公私ご多用の中、大阪府教育センター 稲田なおみ（いなだ なおみ）指導主事並びにご来賓のご臨席を賜りました上、多数の保護者やご家族の皆様のご列席を得ましたことは、入学生はもとより本校教職員一同にとりまして心からの喜びであります。高いところからではございますが、厚く御礼を申し上げます。

ただいま、入学を許可いたしました38名の新入生の皆さん、入学おめでとうでございます。

また、保護者やご家族の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。本校教職員を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、今日、期待と不安が入り交じり、様々な思いを抱きながら、桃谷高校Ⅲ部の生徒として、新たなスタートを踏み出しました。

中には、「中学校から本校を目指してきた人」「中学校卒業後、何年も経っている人」「かつて他の高校に入学し、思いを新たに本校で学ぼうとする人」また「今までに不登校を経験した人」など、様々な人がいます。

しかし、自分の生活を振り返り、「よし、高校に行ってみよう」、そう決意された人ばかりです。皆、同じ思いを持ち、今この入学式の場にいるのです。

そんな皆さんを私たち教職員は大いに歓迎し、暖かく見守るとともに、「どうすれば生徒のためになるか」を考え、支援をしていきたいと思っています。

本校は昨年創立50年を迎えました。50周年記念事業として、同窓会など多くの皆様からご協力をいただき、この講堂の緞帳一式の新調と東西館自習室に空調を設置しました。

また、11月には創立50周年記念式典を行い、歌手のバイマーヤンジンさんによる講演とコンサートを行いました。その講演の話をしたと思います。

バイマーヤンジンさんは、チベット出身の歌手で、難関の中国国立四川音楽大学に入学し、西洋オペラを勉強されました。卒業後は同大学で教鞭をとりながら、中国各地で数多くのコンサートにも出演していました。

彼女のご両親は貧しいチベットの遊牧民で、文字を読むこともできず、生活は大変厳しく、生きて行くのがやっとという家庭で育ったそうです。子どもの頃から働くのが当たり前で、周りには学校にいける人はいなかったため、文字を読める人はほとんどいなかったそうです。

ご両親は、文字が読めないために大変苦勞され、「どんな苦勞をしても、子供達は絶対学校に行かせる」と決心し、彼女を大学まで行かせてくれたそうです。でも何代にもわたった放牧生活をいきなりやめるわけにはいきません。8人兄弟の1番上のお兄さんがすべての家畜を引継ぎ、遊牧の仕事についたので、彼だけは小学校にも行けなかったそうです。

そのような家族の想いに応えるために、彼女は大学時代に民族的な差別やいじめにあうなど、大変つらい思いをした時も、「卒業後は働いて仕送りし、家族を楽にさせたい」との強い思いで、耐えて勉強に頑張ったそうです。

そんな彼女が日本人のご主人と知り合い、初めて日本に来た時、大変ショックを受けたそうです。それは、空には飛行機が飛び、地上には新幹線が走り、さらに地下鉄もある。道路には多くの車、スーパーに行けば食べ物がいっぱいあり、自宅には便利な家電製品がある。自分が過ごしてきたチベットでの生活を思うと、日本は本当に天国のように感じたそうです。

ある時テレビで牛の乳搾りをすべて機械で行っていることを見て大変驚き、「手で搾っている故郷の人たちに、これをプレゼントしたらどんなに助かるだろう。」と思い、母親に話しました。すると「無理だよ。村には電気がないし、そのうえ皆、字が読めないから、機械なんかよけいに難しくなるだけだよ。」と言われ、母親の字の読めない辛さを理解しているつもりでしたがとてもショックを受けたそうです。そして教育がここまで生活に、そして人の人生に深く関わっていることをあらためて知りました。

彼女は、日本とチベットのこの生活の差は教育の差だと考え、チベットの人々を豊かにするためには教育が必要であり、チベットに学校を作ることを強く決意しました。

勉強することで人はいろんな知識を得ます。その知識が人の心や生活を豊かにするのです。彼女は、それから学校を作るための活動を始め、いまではチベットに9つのヤンジン小学校ができています。

世界中には、我々が想像もつかない貧しい国があり、当たり前を感じている電気や水、電車やスーパーなどのありがたさとともに、人を幸せにするのは、教育であるということ、教育を受けることの大切さを再認識しました。

本校にも厳しい家庭環境の中でも、一生懸命勉強している生徒がいます。

私は、これまで「学びたい」「学び直したい」という純粋な思いを持ち、一生懸命、勉強に取り組み、卒業を勝ち取った生徒の姿を観てきました。

今日入学した皆さんが、勉強することの大切さを十分に理解し、これから始まる高校生活において、自分の将来を豊かに、幸せなものとするために、頑張ってもらいたいことが二つあります。

一つ目は「授業を大切にすること」です。

本校は、「どの科目を選択するか」、「どのような時間割を作るか」など、自由度の高い学校です。本校の教職員が指導、支援をしていますが、皆さんが最終決定をします。

自由度の高い学校だからこそ、自主性や自立性、そして自己責任が問われるのです。

学校の基本は授業です。何よりも授業を第一に考えなければなりません。

我々、教職員はいろんな支援をしていくつもりですが、勉強は皆さん自らが取り組まなければ何も始まりません。

そのためには、当たり前のことですが、学校に登校し授業に出席することです。しかし、折角、授業に出ている、寝ていたり、友達としゃべっていたり、スマートフォンなどを触っていたりしては、貴重な時間を無駄にするだけです。

桃谷高校には、さまざまな事情で、勉強したくてもできなかった人が少なからずいます。その人たちは、今、苦勞しながらも、目を輝かせながら勉強しています。

今でも、世界中には学校に行きたくても行けない子どもたちはたくさんいます。

勉強できる環境にいながら、それを拒絶することは、人として許されることではないと思います。

皆さんが、しっかりと勉強に取り組んでいく中で、わからないことがあれば、どんどん先生に聞いてください。

二つ目は、「言葉を大事にする」ということです。「言葉は魔法」です。言葉は、人を頑張らせることも、喜ばせることも、また、悲しませることもできる、魔法です。そして人が生きていく上で、とても大切なものです。

中には人と話すことが苦手な人もいます。先生や同級生などといきなり、話かけることが難しければ、まず、「こんにちは」「こんばんは」の挨拶や「ありがとう」のお礼から始めましょう。みんなが自然に挨拶やお礼の言葉を使えば、そこから会話が始まります。いろんな言葉を考え、使うでしょう。皆さん、人を元気にさせる、勇気づける言葉を使ってください。そうすればきっと、楽しく、すばらしい学校生活を過ごすことができますと私は考えています。

結びに保護者やご家族の皆さん、改めまして、ご入学誠におめでとうございます。

今まで、いろんなご苦勞やご心配があったと思います。今、やっと生徒たちはこうして高校のスタート地点に立っています。私たち教職員はる生徒一人ひとりに良き社会人として社会で生き抜いていく力を身につけさせたいと考えています。そのためには、学校が保護者、ご家族の皆様としっかりと連携し、「生徒が真ん中にある関係」を作っていきたいと考えています。

これから心配事などがありましたら、遠慮なくご相談ください。本校の教職員は皆様とともに、教育に取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。

以上、新入生の皆さんが充実した学校生活を送ってくれることを祈念し、私からの式辞といたします。

平成29年4月10日

大阪府立桃谷高等学校多部制単位制Ⅲ部
准校長 酒井 智